

## 転倒・転落予防対策班の活動について

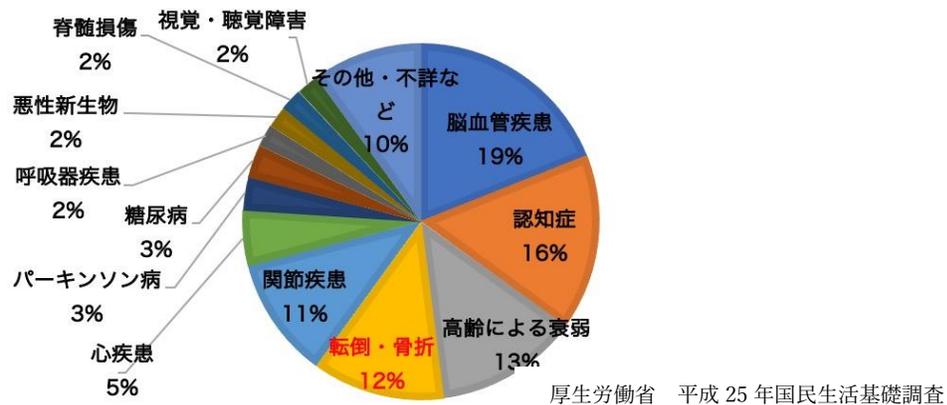
当院では、2017年度より病院内における転倒・転落事故防止を目的とした対策班が設置され、転倒発生時の原因分析、転倒時カンファレンスの充実化、転倒予防対策強化を目的とした病棟ラウンドを行い、日々病院内での転倒事故発生率の軽減、重大事故への予防を目指し活動を行なっております。

転倒事故は入院や寝たきりに繋がるきっかけや最悪の場合死に至ることもあり、可能であれば転倒事故はゼロにすることが一番の目標であります。しかし、「**転倒はゼロにできない**」と言われており、実際どんなに対策を行なっても、どれだけ運動をして身体を鍛えても絶対に転倒しない保証はすることはできません。

私たち対策班は、**患者様の能力に合わせて動きやすく転びにくい環境設定を提供**していくことで転倒のリスクを可能な限り減らしていくことを目標としております。

転倒のリスクは、身体機能の低下や病気や薬などの内的要因、ベッド周りなどの環境や履物などの外的要因、何をしようとしていたのかという行動要因が影響しており、それぞれの要因に対して対策を取っていくことで起こらなくてもよい転倒を少しでも予防することが可能であると考えております。そのためにも、過去の転倒事故の発生要因の分析、転倒発生時の原因調査、対策強化を転倒予防対策班が現在行っております。

要介護度別にみた介護が必要となった主な原因の構成割合 (2013)



我が国の死因順位	
1位	悪性新生物
2位	心疾患
3位	肺炎
4位	脳血管疾患
5位	老衰
6位	不慮の事故



不慮の事故死の原因	
1位	窒息 24.4%
<b>2位</b>	<b>転倒・転落 20.9%</b>
3位	溺死・溺水 19.5%
4位	交通事故 14.7%

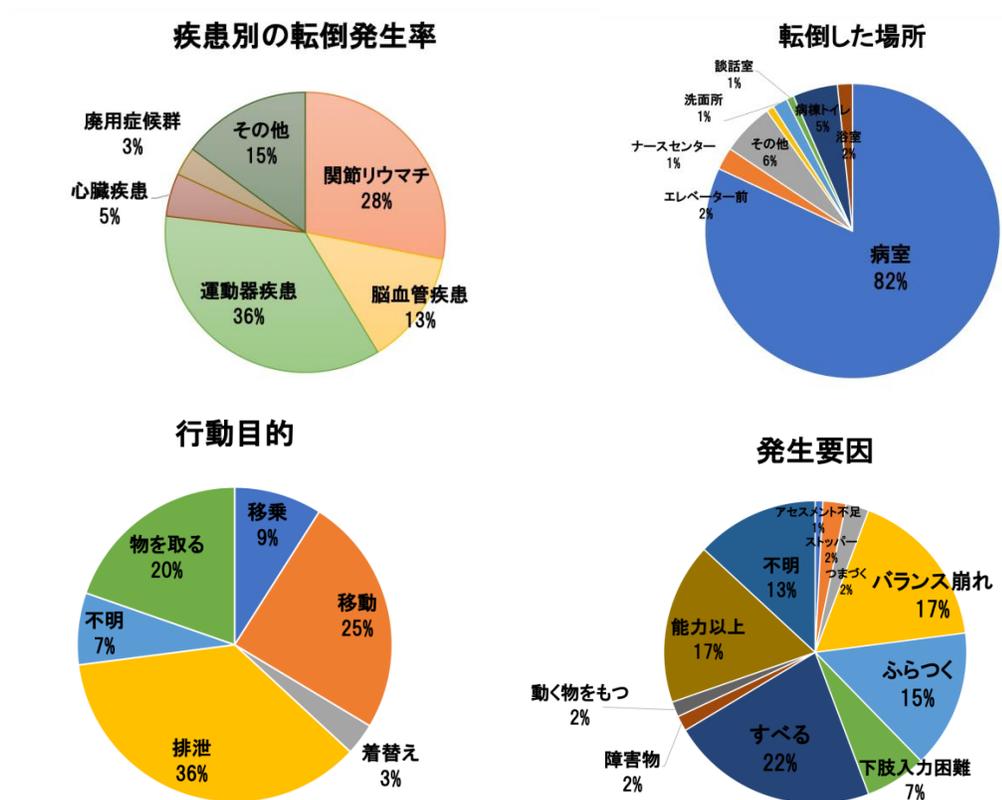
厚生労働省「平成 27 年人口動態統計の概況」

## 活動内容

### ① 過去の転倒事故発生要因の分析

当院の転倒発生件数は、2016年度188件、2017年度184件と二日に一人は転倒しています。

<2016年4月～2017年3月までの集計まとめ>



どんな病気・怪我であっても入院中は身体が弱っていることが多く、**どんな患者様であっても転倒のリスクがあります**。特に病室内での転倒が多く発生しており、トイレなどを目的として立ったり、歩く動作を行う際にバランスを崩したり、ふらつき転倒することが目立っております。車椅子への介助が必要な患者様の転倒も多くみられ、スタッフへ遠慮もあったのではないかと思います。

## ② 転倒発生時の原因調査・対策強化

現在、当院にて転倒事故が発生してしまった場合、全ての転倒事故に対して原因を分析、再発予防を図るために転倒カンファレンスというスタッフによる話し合いを行っています。

再発予防のため、患者様には不本意にも行動を抑制させて頂くこともございますが、私たちと致しましても可能な限り行動抑制は行いたくありません。そのためにもベッド周りを安全に過ごして頂けるようにベッドの位置などの環境を変更させて頂くことがありますので、ご了承ください。

## ③ 転倒対策強化を目的とした転倒ラウンド及びミーティング

当院には**転倒予防指導士**という転倒知識に特化した者が5名（理学療法士1名、作業療法士1名、看護師3名）が在籍しており、その他理学療法士3名、作業療法士3名、看護師1名の**合計12名**が転倒予防対策班として活動しております。

転倒予防対策としては、現在は入院時よりリハビリスタッフによる転倒に対してのアンケート（転倒に対する恐怖感など）、身体機能の評価、看護師による病棟生活での行動によるアセスメント（危険行動を察知する）を行い、転倒の危険性の高い患者様に対しては必要に応じてあらかじめ転倒事故が起きないように対策を行っております。

対策に関しては、各病棟スタッフ、担当リハビリスタッフが中心となり行っており、対策班はその対策に対して問題がないか（過剰な抑制を防止することも含め）月に1度病棟ラウンドを行っています。また、院内での転倒対策の充実化を図るためミーティングを行い、患者様が日々安全に病院内で生活をして頂くために協議しております。

## 今後の活動目標

院内での転倒事故発生率を低下させることが重要であるのは当然ですが、患者様にとっては退院をしてからの生活が大事です。そのために、今後転倒が原因による再入院をできるだけ減らしていくということが課題であると考えております。そのためにも、患者様が**転倒に対しての知識を深めて頂けるように新聞やパンフレット**などの掲示物、**退院後に身体を鍛えることを目的とした転倒予防体操教室**など行うことを計画しております。